

教師の Psychological Capital が保護者への心理的安全性に及ぼす影響

一色 翼（さいたま市立植竹小学校 教諭）

社会的背景と報告者の着眼点 — 保護者への心理的安全性が創造的な教育実践に及ぼす影響 —

現代の教師に対しては、従来の実践にとどまらない**創造的な教育実践**が保護者からも社会からも強く求められている（ベネッセ教育研究開発センター，2012；中央教育審議会，2016 など）。そして報告者は、教師における**保護者への心理的安全性（Psychological Safety）**が確保されていることで**創造的実践**が展開されやすくなることを明らかにしてきた（一色・藤，2020，2022）。しかしながら「教師における保護者への心理的安全性を促進する要因がどのようなものであるか？」という点に関する検討は、国内外において非常に乏しい。そこで本研究では、**Psychological Capital（サイコロジカル・キャピタル；以下 PsyCap と略称）**という概念に着目した。

PsyCap とは、“こうりたい”と願う目標に向けて自律的かつ前向きに向かう心の状態（Luthans, Youssef, & Avolio, 2007）であり、**希望（Hope）・効力感（Efficacy）・レジリエンス（Resilience）・楽観性（Optimism）**の4次元—“HERO”によって構成されると指摘される。PsyCap は近年、ポジティブ心理学領域で注目を集めており、心理的安全性の基盤となる要因としても検討され始めた（Agarwal & Farndale, 2017；Sun & Huang, 2019 など）。とはいえ、PsyCap と心理的安全性との関係について、教師—保護者間の関係に適用した研究は見当たらない。したがって本研究では、「**教師の PsyCap が心理的安全性を高める**」という影響過程を明らかにするという、国際的にも新規かつ有用性の高いアプローチに基づき研究を行った。

研究の目的と成果

本研究の目的は、現代の教師の心の状態を反映した「**教師特有の PsyCap**」の具体的内容を明らかにすること（研究2）、「**教師の PsyCap が心理的安全性を高める**」という影響過程を示すこと（研究3）、**教師の PsyCap を高める「PsyCap 向上プログラム」**を開発してその効果を検証すること（研究4）であった。これらの検討に先立ち、教師の創造性を詳細に測定する尺度として、「**創造的な教育実践尺度 CEPS**」の開発を試みた（研究1）。

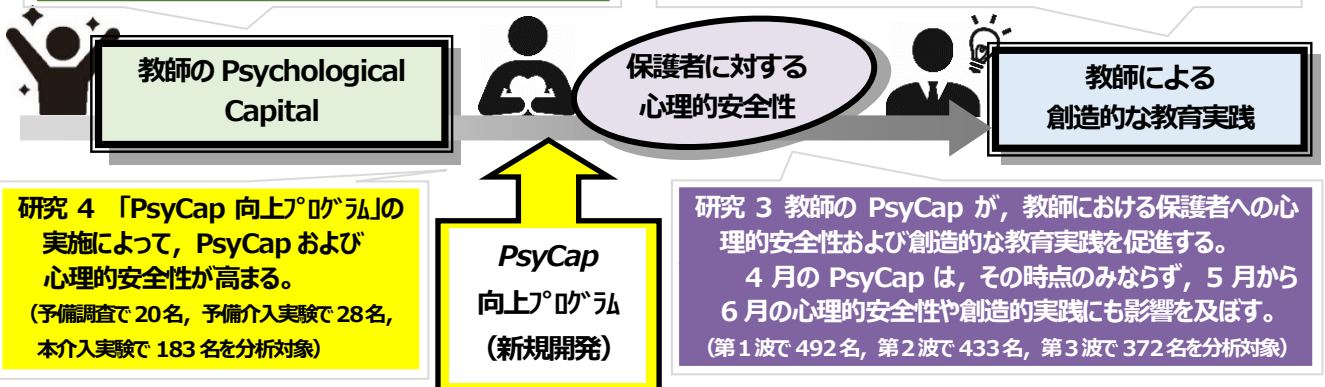
その結果、まず研究1を通して、**創造的な教育実践尺度 CEPS**は“ABCDE”から構成される、一定の妥当性を備えた尺度であることが示された。次に研究2を通して、教師における PsyCap とは、先行研究で示された“HERO”モデル（Luthans, Youssef, & Avolio, 2007）のみならず、**自分や児童、学校の、今この瞬間に向き合いそれらに注意を向けた心の状態**である“E”“S”を含む、“**HEROES**”の6側面から構成される可能性が考えられた。さらに研究3では、**教師の PsyCap が保護者に対する心理的安全性および創造的な教育実践を促進する**という影響過程が明らかになるとともに、4月の PsyCap の高さは、5月から6月における心理的安全性の向上をスムーズにし、**創造的教育の実践化をも促す**可能性があることが示唆された。最後に研究4では、予備調査、予備介入実験、本介入実験と詳細に検討を重ねた結果、**一定の効果をもつプログラムとして「PsyCap 向上プログラム」の開発が実現された**。

研究成果のイメージ

※研究成果の一部を、日本心理学会第86回大会および日本教育心理学会第64回総会にて発表した。

研究2 教師の PsyCap とは、“HEROES”の6側面から構成される心の状態である。
(全国各地で創造的実践を展開・発信している22名を分析対象)

研究1 創造的な教育実践尺度 CEPS は“ABCDE”から構成される、一定の妥当性を備えた尺度である。
(第1波で391名、第2波で323名を分析対象)



共同研究者：藤 桂（筑波大学 人間系 准教授）